

平成26年度 佐賀県立武雄青陵中学校 学校評価計画

1 学校教育目標 高い志と未来を切り拓く力を持ち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。	
2 学校経営ビジョン 併設型中高一貫教育校として、6年間の計画的・継続的な教育活動の中で、生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出すよう多様で柔軟な教育の実践をめざし、学業、部活動の充実、さらに情操豊かな生徒の育成を果たす。こうした中で、生徒・保護者・地域の期待に応える教育を実践し、明るく風格ある学校づくりを推進する。	
3 本年度の重点目標 ①6年間を意識した中高一貫教育の実践とその検証 ②社会で活躍できる情操豊かな生徒の育成(より行ききたい学校へ) ③地域社会が期待する先進的な授業づくりと学校づくり	4 前年度の成果と課題 「本校に入学してよかった(入学させてよかった)」とする生徒が94.4%、保護者が92.1%であり、昨年と同様に高率であったことは、本校教育活動が生徒・保護者・地域の期待にある程度応え続けてきていることの評価だと考える。このことは、本校の評価項目に対する達成状況からも伺い知ることができる。ただ、生徒が自立的に学習する姿勢や善行活動を自ら率先して行う姿勢等については、本年度の方策では満足できる状態には達していない。今後、多様な生徒に対応する取り組みが必要である。

5 総括表 ①6年間の中高一貫教育を意識したより高い進路意識の醸成				
	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	授業力アップの研究	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会(含ICT利活用等)を年間2回以上実施する。 ・他校の授業を年間1回以上参観し、授業法の改善をはかる。 ・6年間を見通した教科指導を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で作成したICT利活用シラバスをもとに実践する。 ・個に応じた分かる授業を展開する。 ・武雄高校との授業研究会を実施し、指導の一貫性について研修を深める。
学校運営	○学校事務	教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・校内予算配分を5月中に行い、早めの予算執行に努める。 ・予算の効率的な有効活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌、教科、学年主任との連携を図り、ICT利活用を含む教材等の選別を行う。また、校舎、備品等の補修、維持管理を行い学びやすい環境づくりをする。
教育活動	●ICT利活用教育の推進	ICT利活用教育の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT利活用による授業実践を毎週1回以上行う。 ・武雄高校とWebで3回以上交流を行う。 ・ICT利活用の研修を毎月行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観を行い、指導力向上に努める。 ・アンケートを実施し、授業のフィードバックを行い、デジタル教材を用いた授業の改善をはかる。 ・武雄高校とのWeb会議やWebチャーターでの交流を企画し、実施する。
教育活動	●学力向上	家庭学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・授業以外の学習時間を平日2時間以上、休日4時間以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDノート等を利用して、家庭学習時間を調査し、全体および個別に指導を行う。 ・効果的に各種テストを行い、家庭での学習量増加を図る。 ・生徒会との連携により、自発的学習態度を向上を促す。
教育活動	●学力向上	指導方法の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ・青陵タイムテストを月3回以上実施する。 ・各種テストの成績分析会を各学期ごとに1回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力の推移を的確に把握し、面接等で指導を行う。 ・各種テストの結果を各教科・学年で分析し、次の指導方法を検討し実践する。 ・日々、課題や週末課題および小テストを実施し、生徒の理解の深化および知識定着を図る。 ・放課後及び長期休業中の学習会等を実施し、より直接的、具体的な学習指導を行う。
教育活動	○中1英・数の学習環境改善	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回目の学力推移調査において、全国偏差値の平均が50を超えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・数学の全時間でTT授業を実施し、理解が遅い生徒への補充学習等を行う。 ・課題を確実に行うように、学級及び教科で指導を行う。
教育活動	○中高一貫	武雄高校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・武雄高校との合同の行事を年間に3回以上できるようにする。 ・武雄高校との連絡会や情報交換会を学期に1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武雄高校との中高一貫推進委員会を学期に1回ずつ実施。 ・中高合同開校記念遠足(5月)の実施。 ・夏休みに中学3年生の高校の体験学習の実施。 ・夏休みにジョイントスタディの実施。 ・11月に、中高一貫教育授業参観・相互研修会を実施。 ・12月に探究の合同発表会の実施。
教育活動	○体験活動	自ら学ぶ生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> (3年)・探究Ⅰ(国際探究・自然探究・未来探究)の活動を通して、自ら学ぶ姿勢や能力を育成する。 (2年)・探究(平和学習・進路学習)の時間において、調査や体験活動を通して自ら学ぶ姿勢や能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> (3年)・テーマについて探究させることで、生徒の知的好奇心を喚起し、自ら学ぼうとする姿勢や学びとる能力を育成する。 ・関西への修学旅行で日本の歴史・文化を肌で感じさせ、それを未来探究へと繋げ、卒業論文としてまとめる。 (2年)・長崎市内を自主研修することで、自主性や協調性、計画性を身に付けさせる。・職業への関心を高めることで、将来の見通しをもち、その実現に向けて努力しようとする態度を育成する。

②社会で活躍できる情操豊かな生徒の育成				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	研修会の充実	・内部講師による研修会を2回以上実施する。 ・外部講師による研修会を実施する。	・本校に勤務し、経験豊かで指導力に富む教師を講師とし、社会で活躍する豊かな人間性を創造する教育の実践方法の共有化をはかる。 ・外部講師を招き、人間力アップの方策を研修する。
教育活動	●心の教育	規範意識の醸成	・学校行事や道徳の授業を充実させ、自己のよりよい在り方を考えさせる。	・学年や他学年との情報交換を密に行い、生徒理解に務める。 ・2学期にふれあい道徳の公開日を設定し、保護者とともに、人間としての在り方を考える機会とする。
教育活動	●心の教育	読書活動の推進	・良質な本に数多く触れることで心豊かな生徒を育成するため、図書館の年間貸出総数8000冊以上を目指す。	・多数の教員による選書を通して、良質な本を多く購入するとともに、学校だより等で生徒達に読ませたい本を紹介する。 ・2ヶ月に1回図書館便りを発行し、図書館にある本を紹介して、生徒が図書館に足を運ぶようにする。 ・朝の読書で学級文庫を活用することによって、貸出冊数の増加を図る。
教育活動	●心の教育	善行活動推進	・生徒会主導で、全生徒による学校周辺の清掃活動を実施する。 ・ベルマークやボトルキャップ、プルタブの回収を実施する。	・ボランティア活動をととして善行活動に対する意識を高める。 ・ボランティアの意義を理解して、自らの行動し、積極的に地域貢献に取り組む姿勢を育む。
教育活動	○体験活動	職業観の育成	・職場体験学習を通して「働く」ことの意義や、将来設計について考えさせる。	・地域のさまざまな職場で体験活動を行い、労働の意義や喜び、苦勞などに気づかせ、自分の将来のあり方について考える契機とする。 ・体験後は、レポートにまとめて発表会を開き、各職場の特色を知る。
教育活動	●健康・体力づくり	部活動の振興	・部活動加入率を90%以上にする。	・学校生活を充実させるために、部活動の意義を理解させ加入を勧める。
教育活動	●健康・体力づくり	生活リズムの確立	・3点(起床、学習開始、就寝)固定を定着させる。 ・朝食摂取を95%以上にする。	・SD(青陵日記)ノート等で生徒の生活実態を把握し、教育相談などを利用して適切に指導・助言を行う。 ・朝食の状況について調査し、朝食の大切さについて食育だより及び保健だより等で生徒に呼びかけるとともに、保護者への協力を依頼する。特に、2年生に関しては、食育講座を通して朝食の大切さを伝える。
教育活動	●いじめ問題への対応	思いやりある生徒の育成	・相手のまわりことを考え、正しい判断や、行動が出来るようにする。	・学期に1回の生活アンケートや教育相談を実施し、生徒の状況把握につとめる。 ・月に1回のいじめアンケートを実施し、いじめの未然防止に努める。
教育活動	○生徒指導	規律ある集団生活の確立	・明るく元氣な挨拶、時間励行、ルール・マナー遵守の定着による、規律ある集団生活を確立する。	・「人は集団の中で生きていく」ことを認識させ、日常における学校内外の様々な場面で、集団生活において守るべきことを理解させ、実行できるよう指導する。
教育活動	○生徒指導	主体的・自律的生活態度の育成	・信義礼節を重んじ、高い志と進路や将来の具体的目標をもち主体的・自律的生活を送る。	・中高6年間を見据えた生活を送り、高校卒業後の具体的目標をもつ。 ・自分で決めたテーマについて探究させることで、生徒の知的好奇心を喚起し、自ら学ぼうとする姿勢や学ぶ能力を育成する。 ・関西への修学旅行で日本の歴史・文化を肌で感じさせ、それを国際探究や未来探究へと繋げる。

③地域社会が期待する学校づくり				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	情報発信の推進	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・ホームページを毎週更新する。(学校行事後は1日以内に更新する。) ・ホームページ年間アクセス数を24000件以上にする。 ・情報の満足度を90%以上にする。 ・情報の発信域を10%以上拡大する。	・学校だより等に生徒の活動状況をふんだんに盛り込み、躍動する学校の様子をつたえる。 ・学校だより等を地域の図書館等にも配布し、地域の人に本校へのよりいっそうの理解をはかる。 ・見たくなるホームページを目指し、生徒の日常の活動等の情報も盛り込んでいく。 ・ホームページに学校の各種だより等をアップする。 ・生徒参加型のホームページ作成を模索する。 ・メール配信システムを利用し、保護者の知りたい情報を積極的に配信する。
学校運営	○開かれた学校づくり	授業参観の推進	・授業参観を年3回実施する。 ・一般対象の公開授業を実施する。 ・授業参観への保護者の参加率を80%以上にする。	・授業参観をメール・ホームページ等で積極的に呼びかける。 ・授業日程だけではなく、内容等もホームページで知らせる。
教育活動	○体験活動	郷土に対する理解の促進	・体験学習や調べ学習を通して、郷土に対する理解を深めさせ、愛着心を育成する。郷土のすばらしさを再認識することができる生徒を80%以上にする	・佐賀市を中心とした自主研修活動を実施し、自分のテーマにそって調べ学習を行う。 ・自分が住んでいる地域以外について調べさせ、郷土についての理解を深める。 ・まとめをポスターセッションの技法を用いて発表させる。